



IFSC-ACC クライミングアジア選手権倉吉2018 開催の記録&記憶

会場:鳥取県立倉吉体育文化会館
期日:2018年11月6日~11日

- 11月6日(火) オープニングセレモニー
- 11月7日(水) ボルダリング予選・準決勝
- 11月8日(木) リード予選・準決勝
- 11月9日(金) スピード予選・ボルダリング決勝
- 11月10日(土) スピード決勝・リード決勝
- 11月11日(日) コンバインド決勝

参加国: 14カ国

(カンボジア、中国、香港、インドネシア、インド、イラン、カザフスタン、韓国、マカオ、フィリピン、シンガポール、タイ、中華台北、日本)

参加選手: 117名(男子68名、女性49名)

- 競技施設:**
- リード壁(室内・仮設) 8m(W)×12m(H)
 - リード壁(屋外・常設) 10m(W)×15m(H)
 - ボルダリング壁(室内・仮設) 31.4m(W)×4m(H)
 - スピード壁(屋外・常設) 2レーン





日本で16年ぶりとなるアジア選手権を鳥取県倉吉市にて5日間の日程で開催した。参加は14カ国を数え、総勢117名の選手のエントリーとなった。本大会は、ボルダリング、リード、スピードに加え、最終日にコンバインドの決勝を行った。鳥取では初の国際大会の開催で日本のトップ選手の活躍もあり、多くの観客が訪れ、盛り上がった。

【リード】

男子決勝には6名の日本選手が登場した。12mの仮設壁に設定された決勝課題は一手一手が極めて厳しい設定であり、粘り強くこなし藤井、西田、高田が同高度まで到達した。準決勝を完登した藤井がカウントバックで1位、今シーズンからWCに参戦している16歳の西田が2位となった。準決勝8位の高田は粘り強い登りを見せ、国際大会で初のメダル獲得となる3位に食い込んだ。地元の高田選手の活躍に会場は大いに盛り上がった。



藤井 快



高田 知亮

女子決勝には5名の日本選手が進出し、キム・ジャイン、サ・ソルの韓国勢との争いとなった。予選・準決勝と全完登しているキム・ジャインは決勝でも終始リラックスしたスムーズな登りで唯一の完登で1位、終了点間近まで迫った野口が2位となった。9月の世界選手権でも4位に入っている小武は安定した力で3位に食い込んだ。また、4位と5位には、ともに16歳の平野と栗田が入り、今後の活躍に期待を抱かせる結果となった。



Kim Jain

【ボルダリング】

男子決勝には、4人の日本選手が出場した。1・2課題を一撃した榎崎は3課題も唯一完登し、さらに4課題も苦戦しながらも登り切った。4完登の榎崎が1位で、3完登の渡部と中国のパン・ユーフェイはアテンプト差で2位が渡部、3位がパンとなった。日本選手による上位独占も予想されたボルダリングではあったが、中国の若いパン・ユーフェイの切れの鋭い動きは今後日本にとっても侮れない相手になりそうである。



伊藤ふたば

女子決勝には5人の日本選手が駒を進めた。1・2課題を終わった時点で、2完登した野口、伊藤、倉、菊地が並び、混戦となった。3課題では伊藤と菊地のみが完登し、4課題は倉が完登する。3完登した3名のうち、アテンプト差で伊藤が1位、倉が2位となり、ゾーンの差で菊地が3位に入った。2完登にとどまった野中と野口は4位、5位となった。くしくも上

位3名が10代であり、日本選手のボルダリングの選手層の厚さを示す結果となった。

【スピード】

世界記録保持者のイランのレザー・アリプアシェナに注目が集まったが、予選2本目でフォルススタート(フライング)で予選敗退した。決勝は予選上位16名によるトーナメントである。インドネシア選手が決勝に5名進出するなど、スピードを強化している国からは複数選手が決勝進出している。日本選手は土肥のみが決勝に残った。トーナメントの上位に進出する選手はラウンドが進む毎に記録を伸ばし、準決勝以上では5秒台の勝負になった。インドネシアの選手が上位4位までを独占し、5.833をたたき出したアルフィアン・ムハンマドが0.003秒差で1位に輝いた。

女子の決勝には野中、伊藤の2名が挑んだ。野中は自身の持つ日本記録を伸ばし、準決勝では日本記録の8.785を打ち出した。決勝に5名の選手を送り出したインドネシアがやはり強く、サリ・アグスティナが決勝で中国のソン・イリンを退けて1位になった。



女子スピードファイナル

【コンバインド】

リード・ボルダリング・スピード3種目すべてに出場した選手のうち、各種目の順位ポイントの掛け算による上位6名が最終日のコンバインド決勝に出場した。決勝に駒を進めた日本選手は男子4名、女子3名となった。

スピード、ボルダリング、リードの順で競技を行う。男子スピードの決勝は日本人対決となり、杉本が榎崎をおさえて1位になった。2種目のボルダリングでは、逆に榎崎が杉本をおさえて1位となり、勝負の行方はリードの結果次第となった。最終種目のリードでは榎崎が粘りを見せ、杉本より1手上回って2位に

食い込み、リード4位にとどまった杉本を抑えて複合1位となった。複合2位は杉本がとり、複合3位にはリード1位のパン・ユーフエンが入った。

女子は、初めのスピードで野中1位、伊藤3位となり、野口も4位に踏みとどまった。2つ目のボルダリングでは、全課題を完登した野口が1位、3完登した野中が2位、同じく3完登の伊藤が3位となった。この時点で野中が暫定複合1位、野口が複合2位という順であった。最終種目のリードで野口は圧巻の登りを見せ、最終ホールドへのレンジもしっかりと決めて完登。暫定1位だった野中は野口の記録に並ぶ必要があったが、リード5位に終わり、野口が複合1位、野中2位、伊藤3位となった。野口は8月のジャカルタのアジア大会での優勝に続き、コンバインドでアジア王者となり、いざというときの勝負強さを見せつけた。



野口 啓代



榎崎 明智

【総括】

11月の鳥取は時に氷雨が降るが、大会期間中は大きな天気の流れはなく、ほぼ好天続きで予定通り大会を進めることができ、うれしい誤算となった。

コンバインドでは6名のメダリストのうち5名が日本選手であり、スピードを含めた強化策が結実しつつあることを目の当たりにした。ただしスピード競技を見る限りでは上位選手が男子で5秒台、女子で7秒台をたたき出す中、日本選手はまだ世界トップレベルには届いていない。スピードで出遅れないためには

さらにスピード競技への取り組みが必要となるだろう。また、スピード・ボルダリング・リードをする中でどこでどう勝負をかけるか、今後の諸大会で経験値を積み上げつつ、勝つための戦略をどう立てるかの研究が必要となるだろう。



リード予選の様子

大会前夜のオープニングセレモニーでは鳥取東高校書道部による「書道パフォーマンス」が披露され、海外選手からも拍手喝さいがおきた。また大会期間中は平日を含め、クライミングを知る人だけでなく、老若男女、地域の多くの方が会場に訪れた。小中学生の全校あげての観戦もあり、大変盛り上がった。温かい声援や拍手が多く、海外選手を含めて選手が気持ちよく競技に臨んでいる感じが感じられた。大会運営に関しては大きなトラブルはなく、鳥取初の国際大会を実施することができた。これも事前研修を繰り返し行ってきた鳥取県山岳・スポーツクライミング協会のスタッフの皆さんのはたらきや通訳・おもてなしボランティア、壁建て等の地元業者などの多くの協力のおかげであると感じた。また、実行委員会立ち上げ時から一貫して支援し続けていただいた鳥取県と倉吉市の後ろ支えは極めて大きく、感謝申し上げたい。

観戦した子どもたちの多くが大会後にクライミング体験に挑戦したとも聞く。国際大会を開催できたことは地元にとって大きな財産となったが、アジア選手権を未来にどうつなげ活かしていくのかが今後の課題であろう。また、日本でのコンバインドの国際大会は今回が初開催であった。今大会運営の成果や課題は2019年の世界選手権（八王子）、2020年のアジア選手権（盛岡）そして東京2020の大会運営に活かしていきたい。

（鳥取県山岳・スポーツクライミング協会 山田佳範）

【成績】

男子リード

順位	名 前	決勝	準決勝
1	藤井 快	32+	TOP
2	西田 秀聖	32+	38+
3	高田 知亮	32+	33+

女子リード

順位	名 前	決勝	準決勝
1	Kim Jain (韓国)	TOP	TOP
2	野口 啓代	34+	TOP
3	小武 芽生	31	34+

男子ボルダリング

順位	名 前	記 録
1	檜崎 明智	4T4Z1313
2	渡部 桂太	3T4Z278
3	Pan YuFei (中国)	3T4Z911

女子ボルダリング

順位	名 前	記 録
1	伊藤 ふたば	3T4Z57
2	倉 菜々子	3T4Z97
3	菊池 咲希	3T3Z55

男子スピード

順位	名 前	記 録
1	Alfian Muhammad (インドネシア)	5.833 (Final)
2	Sabri Sabri (インドネシア)	5.836 (Final)
3	Aspar Jaelolo (インドネシア)	5.878 (Small Final)

土肥 圭太 15位

女子スピード

順位	名 前	記 録
1	Sari Agustina (インドネシア)	8.366 (Final)
2	Song YiLing (中国)	9.151 (Final)
3	Aries Susanti Rahayu (インドネシア)	7.816 (Small Final)

野中生萌 6位 伊藤ふたば 15位

男子コンバインド

順位	名 前	リード	ボルダ	スピード	ポイント
1	檜崎 明智	2	1	2	4
2	杉本 怜	4	2	1	8
3	Pan YuFei (中国)	1	5	4	20

女子コンバインド

順位	名 前	リード	ボルダ	スピード	ポイント
1	野口 啓代	1	1	4	4
2	野中 生萌	5	2	1	10
3	伊藤ふたば	2	3	3	18



コンバインド決勝の高田知亮



オープニングセレモニーの書道パフォーマンス

